

小学校へ行くといじけてしまうと不満に思い、小学校側では、幼稚園からきた子どもは集団ずれがしていて扱いにくいと不平を持つて、互いに感情に走り、意志の流通の欠けるのは、まことに残念なことであります。

事情がゆるせば、幼稚園の教師がそのまま小学校にもちあがり、小学校低学年の担任が幼稚園の教師となるように人事の交流がおこなわれることにより、この問題は自然に解決されるでしょう。しかし、現状では相互に教育の実状を理解し合うような方法を講じていくことが目下の急務です。少なくとも、幼稚園の先生は小学校の一・

新年を迎えて想うこと

新年の抱負

新年を迎えてこと新しく決意をかためることもないけれど、編集部からの御依頼をうけたのを機会に日頃心の底にうずいて、いることを思いのままにのべてみよう。

「過去の経験を通して若い人たちと語り合いたい」

三十六年もの間、幼児教育一すじに思いを貫いてきた私には失敗のこと、成功のこと、いろいろと想い出されて時には自分の夢に酔う時もある。十年一昔というけれどほんとに十年間ごとに幼児教育の方向も社会のうごきとともに前進しながらまわっている。しかも時には逆もどりするのではないかということさえ感じることがある。

二年を、低学年の先生は幼稚園の四・五才児の実態をしる必要がありませぬ。

最近地区的には、園長・校長が中心となり、この方面の研究に先鞭をつけて、お互いに実際指導を参観し合い、合同の研究会をたびたび持っているところのあることは、この時期の子どもの幸せをねがう教育者の熱意のあらわれとうれしく思います。

今年はこの種の活動がますますさかんになり、地区的にも回数多くおこなわれると同時に、全国的にも拡がっていくよう願ってやみませぬ。

山村きよ

大正時代に始めて保育の方法を知り、「よい先生になろう」と決意して一斉保育の上手なこつをおぼえてからお茶の水女高師保育実習科に学んだ私は、一斉保育の形態からぬけ出ることに非常に骨を折った。

昭和の初期から戦争前まで自由保育（誘導保育）ととりくんでいつも熱心な先生方から問題視され通しながらも、一応の落ちつきを見て昭和十年頃からの一昔は実に充実した楽しい幼稚園生活を送った。

戦後は姿こそ変わったけれどもり上った自由の流れ、保育に意気揚

場ととりくんで、また一斉保育と自由保育の「よし、あし」を論ずる人たちから注目をあびたひとりだったと思う。

いつも研究会の中心課題が保育形態におかれたら遊戯や製作などの技術的な面ばかり問題が片よって、かんじんの「幼児ひとりひとりの人間性をつくる」ことや「幼児教育の根本問題」をほりさげて論ずる機会がないままに幼稚園ブーム時代が来てしまったら、指導要録が六領域に分かれて出てしまった後、三、四年も過ぎてからようやく「幼稚園教育要領」を示されたら、……ほんとに幼児教育のバックボーンを見つげ出すのに苦しんだ時代が案外ながかったように思われる。私のような者でも若い人たちからいろいろと相談相手をさせられて、ともに苦しんできた道ではあるけれど……しかも戦後また一昔過ぎようとしている今、ほんとに反省させられることが多い。

三十年前からつづいて問題になっている「幼稚園と小学校の関連問題」も、今だにスムーズに運ばぬ点は、あまりに幼児の実態、幼稚園生活の内容を「知らな過ぎる」小学校の先生——がいられることと、また三十年前よりもっとはなはだしい「幼稚園の子守の先生」のなくならないことの上に、戦後の望ましくない社会環境のわるい面のみ吸い取って成長したような幼児の実態にぶつかって……それまでを幼稚園教育の責任と考へておられる実学年の先生方と心ゆくまで語り合ってみたい。また今のごどもと真剣にとりくんで活躍しておられる若い先生方に、昔の私どもの意気を伝えて當時を連想してもらい度い……などと時々自分で勝手な夢を描いている時。

しかし戦後の複雑な社会環境や、めんどろな家庭環境に圧迫を感じて育っているごどもたちであるからこそ……また幼稚園教育こそ道德教育につながる心情を育て得る時にあるので、そのために、全生活にあたる「生活指導」が調和的におこなわれるべき責任をもたねばならないと思う。しかし今日、この頃のごどもの現状を見ると

き、何かしら今の幼稚園教育に「かけているもの」があるのではないかと痛感しているひとりでもある。

戦後の新しい教育をうけて育ってきたごどもたちの中には、役に立つごどもや次のような心づよい現われも見える反面、指導の困難さにゆきなやむこともたびたびである。

○積極的に行動し、しかも要領のいいごどもが目立つ。

○明るく、のびのびと見えるのに、意志力がよわい(がまんができない)ごどもが多い。

○教師の云うことばのみこめていのに、自分勝手な行動に出るものが目立つ。

○なぜやりで、物を粗末にする傾向が目立つ。

○約束、よし、あし、その他わかりきっているのに実行しないごどもが目立つ。

以上のようなことを、ただ「社会の罪家庭の責任としてしまわないうで何とか責任ある教育の力」で「すなおな人間性」このましい友だち関係」に育ててゆく心情を育てたいものと日夜努力しているにもかかわらず、結果的には幼稚園教育に理解のある小学校の先生方からも、もう少し「わくからはみ出ない、すなおさをもった生活態度を身につけてきてほしい」といわれるたびに、つくづくと幼児教育のむずかしさを想う。戦後の社会で成人されて先生となられた若い先生方で、しっかりと幼児の実態にとりくんでおられる各方面の先生方と心ゆくまで「幼児教育の根本問題について」話し合いたいものである。

○魅力ある、えんちょうせんせい」

どんなに忙しくても朝だけはごどものひとりひとりにことはを交してやりたいと思つて朝の三、四十分間は門前や玄関に立って登園して下さるごどもを迎える私であるけれど……ごどもの姿のとぎれた時にふと自分をふりかえつて反省してみる。

こどもたちはどんな気持で私に接しているだろうか？ 「大きい園長先生」「肥えた太い園長先生」？ と目をみはりながらも私の笑顔に対して「おはよう」とはきれいな元氣よい声を聞かせてくれる者、きえ入るような小さい声でいともていねいにあいさつする女の子、また時には私の大きなおなかのあたりをぽんとたたいてにっこり笑いながら走ってゆく男の子をうらやましうにながめる気弱な男の子など、朝の登園の時間は私にとって一番たのしい時でもある。一〇メートルも先きから声を揃えて私をよびながらスキップで入ってくるこどもたちを見て、ほんとに「このこどもたちのために魅力ある園長先生になろう」と誓うことがしばしば……。こんなとき私の心からなる「おはようのあいさつ」をうけて朝の不気嫌な気持をすっかり直したら、また何かのはずみで大げんかをして帰った昨日の出来ごとを思い出して、不安定な気持で登園した男の子も、一応安定した気持で保育室に入ってゆく後姿を見てほっとすることもある。

先日も職員室でこんな話をしておしゃれでない「身だしなみ」の必要性をつくづくと話し合った。もし私が朝みんなに逢った時、髪は乱れて生気のない顔でいたら……ひとりひとりの先生方がどんな気持で保育室にゆかれるだろうか？ 「病氣かしら」と心配する位ならいいけれど、「園長先生は何が原因であんなに不機嫌なようすをしているだろう」とそれぞれ自分に関係しているのではないだろうかと一日中不安定な気持でこどもの相手をせねばならないとしたら……その影響は同じようにこどもひとりひとりの感情にうつり、行動に影響してゆく。「今日先生の髪がきれいだったよ、いつもと違ったよ」「洋服が黄色でとてもきれいだった」などと戦後は男の子まで受持の先生ひとりひとりの服装や髪型にまで目をむけて、家庭にかえってからの話題を豊富にしていることをあれやこれや話し合いながら、結局は職員室の先生方みんながそれぞれのこどもたちから

「魅力ある先生」として接せられるように心身ともに健康体で過せるような努力を誓い合ったが、その大もとは「魅力ある園長」自身にあることを自身の心にも誓った。

「幼稚園教育にも法的措置を」

幼稚園が学校教育の形態に入ってもう一〇年……この道の関係者の熱心さによってますます発展し、戦後には見られなかった多くの幼稚園が誕生したことは誠に喜ばしいことであるが、今もって国の法律にも守られず、そのために幼稚園界にはいろいろの難問題が解決されない現状でほんとに残念でならない。六三制実施によって生れ出た新制中学が、財政的な貧困をなげきながらも「義務教育」であるためにその発展ぶりはめざましく、昨秋はあのように盛大な十周年記念式典がおこなわれ、うらやましき限りである。昭和二十五、六年頃からは保育所が福祉法によって守られ、つづいて産業教育、理科教育、図書館教育、へき地教育などつぎつぎに振興法が作られて何らかの財政的裏づけをされてきたのに、同じように教育の重要性を認めて学校教育の体系に入った幼稚園のみがどうしていつまでも「ままこあつかい」をうけねばならないのだろうか？

世の中の不良児童に手をやき、青少年の犯罪に苦しめられている社会をのぞく時、大きくなってから「道徳教育」を教えようとしても無駄なことだと思ふ。三つ子の魂百までの時代を受持つ幼稚園こそ、道徳教育の土台をあずかる重要な教育機関であることを教育行政に携わる人々や、各都道府県の立派な先生方にじゅうぶん知ってもらいたいと思ふ。まだまだ昔の幼稚園を考えて「あつてもなくてもいい幼稚園」と想っていられる人々が案外多いと思ふので、一日も早く「幼児教育振興法」に守られ、教育の内容を充実させるための教員養成や、設置基準の完全実施に国の力をかりて一步一步前進してゆく幼稚園の姿を夢見て一生懸命ベストをつくしてゆきたいと思ふ。